令和６年度　小学校高学年における教科担任制推進事業の成果等について

令和７年３月
小中学校課

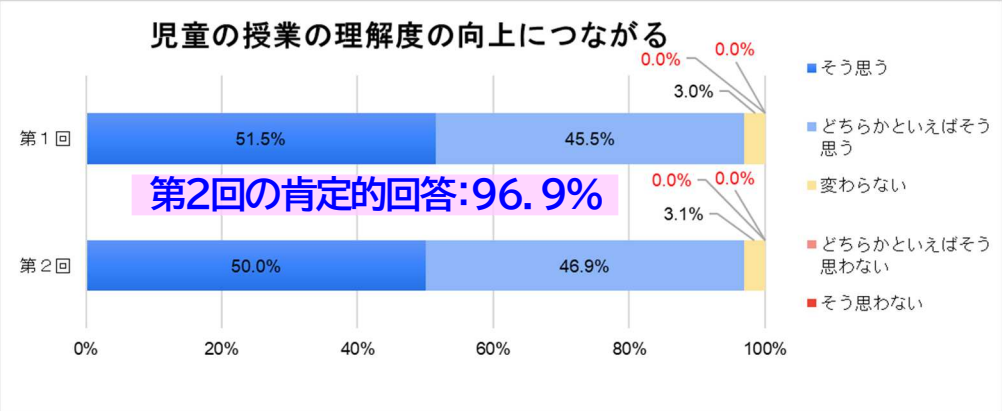
　県教育委員会では、令和３年１月の中央教育審議会答申において、令和４年度を目途に義務教育９年間を見通した小学校高学年における教科担任制の本格的導入が必要とされたことを踏まえ、質の高い学習の保障による児童の学習内容の理解度・定着度の向上及び学校の働き方改革を進めること等を目的として、令和６年度も小学校高学年における教科担任制推進事業を実施した。
　「学習指導の充実」「生徒指導の充実等」「働き方改革の推進」「中学校への円滑な接続」を視点に、学級担任間の交換授業と専科教員等の授業を組み合わせた取組を実施した令和６年度における本事業の成果等を以下のようにまとめた。

１　令和６年度小学校高学年における教科担任制推進事業について

（１）令和６年度の推進協力校
　　鳥取市立久松小学校　　鳥取市立賀露小学校
　　北栄町立北条小学校　　境港市立境小学校

（２）推進協力校の実施状況アンケート結果
　　１回目アンケート　令和６年　７月～令和６年８月実施　回答数　３３
　　２回目アンケート　令和６年１２月～令和７年１月実施　回答数　３２

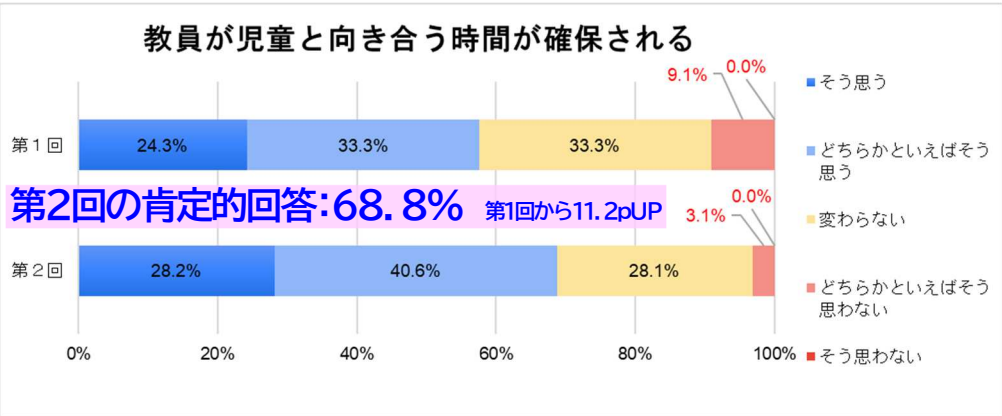
〇教科担任制を導入することによって、児童の授業の理解度の向上につながると思いますか。



ポイント

　各教員の得意分野や専門性を生かせることや受け持つ教科が限定され教材研究を充実させられること等が授業の質の向上につながり、さらに児童の授業の理解度の向上につながります。

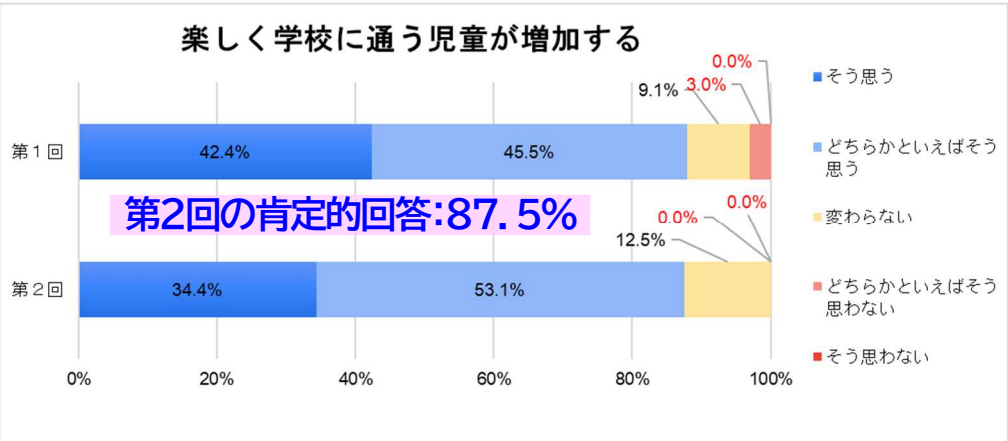
〇教科担任制を導入することによって、教員が児童と向き合う時間が確保されると思いますか。



ポイント

　受け持つ教科が減ることで、教材研究の時間が減り、直接児童に関わったり教員間で児童の様子を共有したりする時間が確保できるようになります。一人の教員が向き合う児童の人数が増えますが質の深い見取りは難しくなることもあります。しかし、それは多くの職員で見取り、共有することで補えると考えられます。

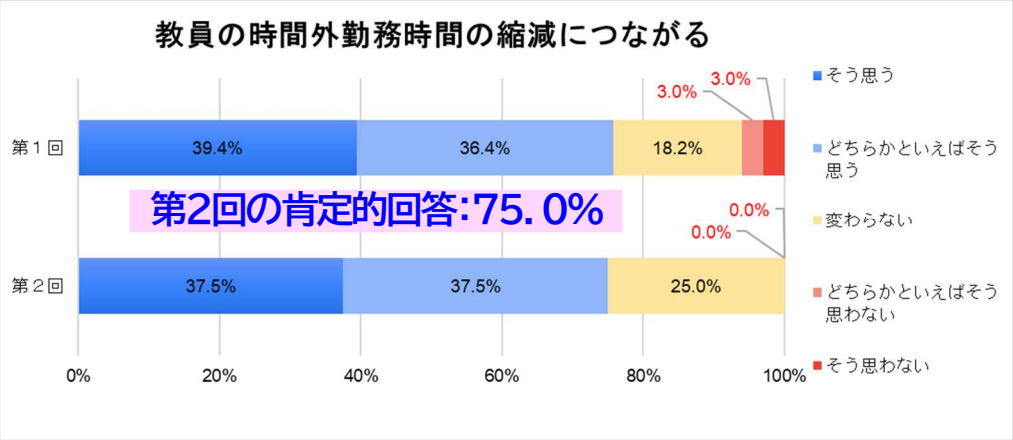
〇教科担任制を導入することによって、楽しく学校に通う児童が増加すると思いますか。



ポイント

　専門性を生かした授業により、授業が分かり、授業が楽しくなる児童が増えること。また、いろいろな先生との関わりが増えることで安心して学校で過ごせる児童が増えることによって、楽しく学校へ通う児童が増えると考えられます。

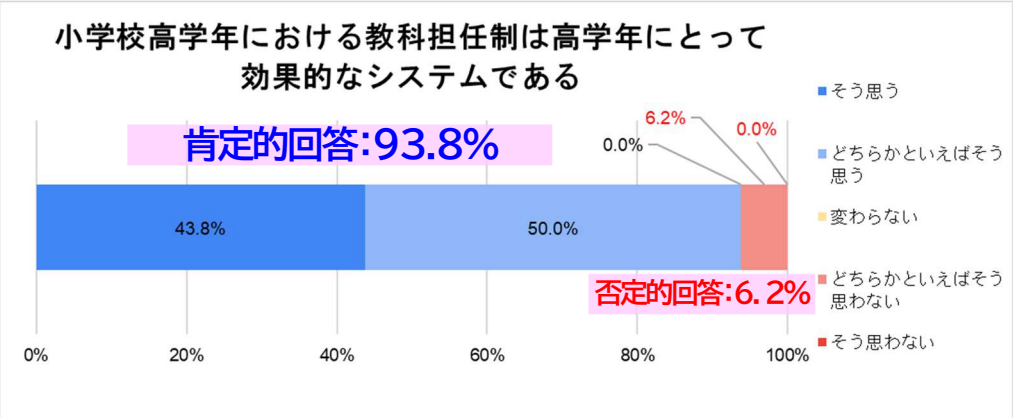
○教科担任制を導入することによって、教員の時間外勤務時間の縮減につながると思いますか。



ポイント

空き時間を確保することができ、そこで学級事務や教材研究等を行うことで時間外勤務時間が縮減されます。教科担任制で高学年の担任の空きが確保されても、他の学年や支援学級等で空き時間が確保できず、学校全体での時間外勤務の縮減とはならないとの意見もありました。

○上記の質問の内容を総合的に考えて、小学校高学年における教科担任制は高学年にとって効果的なシステムであると思いますか。（第２回アンケートのみの回答項目）



ポイント

教科担任制に取り組んだ先生方の約９割が肯定的な回答をしています。ぜひ、今後の導入を検討する際の参考としてください。

２　成果と課題

	成果	課題（→解決策）
学習指導の充実	○教員の専門性や得意分野などを生かして授業を行うことで、児童の授業理解度が向上したり、授業が楽しいと感じる児童が増えたりした。 ○受け持つ教科のより深い教材研究ができ、さらに複数回授業を行うことで授業がブラッシュアップされ、授業改善につながった。 ○学年の枠を越えて授業を受け持つことで、より系統性を意識した授業を行うことができた。	○受け持たない教科の指導力低下の恐れがあり、そのことを不安に感じる教員もいる。 →数年連続して同じ教科を受け持たないことがないよう担当教科の工夫をする。 ○経験年数の浅い教員が一人で複数の学級を受け持つことに不安を感じることがある。 →空き時間を学年で揃えるなど、ＯＪＴを考えて児童の様子について情報共有したり、一緒に教材研究したりできる時間を確保する。
生徒指導の充実等	○児童の様子を複数の教員で見取ることで、児童の変化に早く気付き、対応できた。 ○個々の児童に複数の教員で関わる機会が増え、児童の多面的な理解につながった。 ○空き時間に児童について考える時間や他の先生と児童のことを情報共有する時間が取れるようになった。	○自分の学級との関わりが少なくなる場合があり、問題行動への対応が遅れたり、事後の指導になったりする場合があった。 →学級に関わる全ての教員が同じように子どもたちへの対応を行う体制づくり、指導内容の共有を行い、問題行動に対してチームで対応する。
働き方改革の推進	○空き時間が確保できたことと、教材研究する教科が減ることで時間にゆとりができ、時間外勤務時間の縮減につながった。 ○その学年に関わる教員同士がチームを意識して学年・学級経営や児童の指導に当たるようになった。 ○ＩＣＴ活用や、音楽、体育など教員の得意分野や専門性を複数の学級で発揮することができ、教員の働く意欲の向上につながった。	○高学年の教員だけでなく、全職員の時間外勤務時間の縮減につなげるような工夫が必要となる。 →教科担任制で生まれた高学年担当の教員の空き時間で他学年の授業を担当したり、同じ教科内で教材の共有を行ったりする。
中学校への円滑な接続	○児童が教科担任制の授業システムに慣れることで、中学校での授業の不安が軽減された。	○小学校と中学校の担当者による意図的な連携と、そのための時間や場の確保が必要になる。 →兼務教員や小中合同の研修会を活用し、９年間で育てる児童生徒の姿をもとに、それぞれの取組を共有する。

３　小学校高学年における教科担任制推進協力校の事例等（令和６年度）

例１＜専科等による授業と中学校教員による授業＞（５年２学級、６年３学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	５年１組担任	A	I	A	A･J	H	G	A	A	A	K	A	A	A	5	9	6
B先生	５年２組担任	B	I	B	B･J		B	B	B	B		B	B	B	4	10	5
C先生	６年１組担任	C	C	C	C･J		G	C	F	C	L	C	C	C	5	8	8
D先生	６年２組担任	D	D	D	D･J			D		D		D	D	D	5	8	8
E先生	６年３組担任	E	E	E	E･I			E		E		E	E	E	5	8	8

F～J先生：専科・級外等　　K・L先生：中学校外国語教員

専科や級外等による授業、中学校教員による授業を合わせて実施している例です。

ポイント

【専科や級外等による授業】：５年（書写、理科、音楽）
　　６年（理科、音楽、家庭科）
【中学校教員による授業】　：５年（外国語）
　　６年（外国語）

○専科や級外等よる授業で学級担任の受け持つ教科を絞り込み、持ち時間数の軽減や授業準備の負担の軽減を図っている。
○K先生とＬ先生は校区中学校の外国語担当教員で、K先生が５年生、Ｌ先生が６年生の外国語を週２コマ担当している。
○算数については５年生、６年生ともに少人数指導を行っている。

例２＜交換授業と専科等による授業＞（５年２学級、６年２学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	５年１組担任	A	A	A	A	F	E	A	A	A	G	A	A	A	4	9	6
B先生	５年２組担任	B	B	B	B			B	B	B		B	B	B	4	9	6
C先生	６年１組担任	C	C	D	C			C	C	C		C	C	C	5	8	6
D先生	６年２組担任	D	D	D	D			C	C	D		D	D	D	5	7	6

E～G先生：専科・級外等（Gの外国語専科は他の小学校所属の兼務教員）

専科や級外等による授業、６年生での学級担任間の交換授業を実施している例です。

ポイント

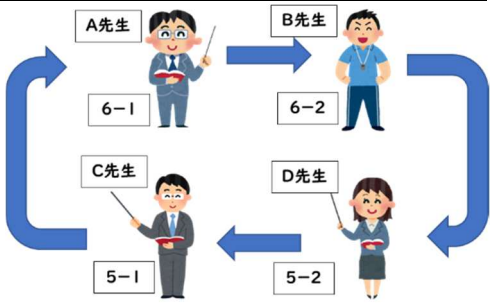
【学級担任間の交換授業】　：社会と図工・家庭科を交換（６年生）
【専科や級外等による授業】：理科、音楽、外国語

○５・６年外国語担当の他の小学校所属の兼務教員と級外の３・４年外国語担当の教員とＡＬＴの打合せの時間を設定し、スムーズな連携がとれるようにしている。
○ＩＣＴの活用や音楽が得意な教員など、それぞれの教員の得意分野や専門性を複数の学級で生かせるよう担当教科を決めている。
○６年生だけでなく、２年生でも音楽と図工で担任間の交換授業を行っている。

例３＜チーム担任制と複数学年交換授業と専科等による授業＞（５年２学級、６年２学級）

【チーム担任制】

５・６年生の４つの学級を４人の教員が担当する。定期的に担任交代し、朝の会・給食・掃除・帰りの会などを指導する。原則、２週間で担任を交代するが、学年の状況・行事等に応じて柔軟に変更していく。



ポイント

チーム担任制のポイントは、「誰が子どもたちの前に立っても大丈夫」な体制づくりです。
子どもの良さや課題を多くの教師で見出し、得られた多様な情報を「共有し共通理解すること」によって、教師はよりきめ細かな指導を行うことができ、児童にとってもいろいろな先生から見守られているという安心を感じることができます。
そのためにも、「チームで学年全体の子どもを見る」という考え、つまり、「個人（担任）と子ども」から「チーム（または学年団）と子ども」という考えへ、意識を転換させることが、この取組では重要となります。

≪チーム担任制のメリット≫

①【きめ細かな指導】
複数教員で、児童一人一人の長所や課題を認め、指導・支援が可能になる。

②【子どもの安心感の向上】
複数教員で指導する体制では、教員同士の情報交換が活発に行われ、子どもたちへの見守りの機会や声かけが増える。

③【指導の均等化】
チームで協力して学年全体の指導にあたるので、どの子どもにも同じ指導ができ、学級による指導の差が減少する。

④【いじめや不登校の未然防止】
相談できる教員の選択肢が広がり、相談しやすい教員に早期に相談することで、諸問題の未然防止や早期解決につながる。

⑤【教員の指導力の向上】
チームで児童の指導にあたることで、 一人一人の教員の長所をさらに引き出し、指導力の向上や指導技術の継承にも効果が期待できる。

【複数学年交換授業と専科等による授業】

<table>
<tr><th>学年
組</th><th>国語</th><th>書写</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>音楽</th><th>図工</th><th>家庭</th><th>体育</th><th>外国語</th><th>総合</th><th colspan="2">道徳　学活</th><th>関わる教員数</th><th>空き時間数</th></tr>
<tr><td>５年１組</td><td>D</td><td>D</td><td rowspan="4">E</td><td>C</td><td rowspan="4">F</td><td rowspan="4">D</td><td>A</td><td rowspan="4">B</td><td rowspan="2">A･B</td><td>A</td><td rowspan="2">A･B</td><td colspan="2" rowspan="4">ABCDが交代、またはチームで指導</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>５年２組</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>C</td><td>C</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>６年１組</td><td>D</td><td>D</td><td>C</td><td>A</td><td rowspan="2">C･D</td><td>A</td><td rowspan="2">C･D</td><td>6</td><td>6</td></tr>
<tr><td>６年２組</td><td>B</td><td>B</td><td>A</td><td>C</td><td>C</td><td>6</td><td>6</td></tr>
</table>

担当教科数
A先生：７　B先生：６　C先生：６　D先生：６
E先生：社会担当（教務主任）　F先生：理科専科

ポイント

複数学年での交換授業と専科や級外等による授業を合わせて行っている例です。

○国語と算数は同じ学年を担当するのではなく、５年生と６年生の２学年を縦持ちする。縦持ちすることで系統的な指導を図るとともに、中堅と若手のペアで協働的な教材研究を行うことでＯＪＴを行えるようにする。
○体育と総合的な学習の時間は学年担当を固定する。
○道徳、学級活動は複数の教員が交代、またはチームで指導する。

今後の小学校における教科担任制の取組に向けて

令和７年３月
小中学校課

各学校の状況に応じて中学年から教科担任制の導入の検討をお願いします。

令和６年８月の中央教育審議会答申において、学びの質の向上と教師の持ち時間数軽減のため、高学年に加え、中学年についても教科担任制を推進することが示されました。また、すでに県内の多くの学校が中学年から理科や音楽で専科教員等の授業を行っており、学級担任間の交換授業も中学年で行っている学校が全体の約４割あります（令和６年度学校教育実施状況調査より）。

ぜひ、各学校の状況に応じて中学年から専科教員や級外教員による授業に加え、加配の有無にかかわらず取り組むことのできる、学級担任間の交換授業も御検討ください。

検討案①　担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす。

【メリット】
- １教科あたりの教材研究の時間が増加する。
- １学年複数学級であれば、同じ内容の授業を複数回行うため、その都度、授業内容や指導内容をブラッシュアップすることができ、担当する教科の指導力向上がねらえる。
- １学年１学級であれば３・４年生、５・６年生をまとまりとして教科の系統性を踏まえた指導ができる。

教科数が減ることは、教材研究や授業準備、テストの丸付け等の業務負担軽減となりますが、特に若手の先生にとって、受け持っていない教科等をいざ自分が教えるとなったときには不安があると思います。空き時間に受け持っていない教科の授業を参観したり、毎年受け持つ教科を変えて、複数年ですべての教科を指導できるようにしたりするなどの工夫が考えられます。

検討案②　試しに１単元だけで交換授業を行ってみるなど、まずはやってみて「手ごたえ」を実感する。

【メリット】
- １単元のみなので、取組が難しい場合は元に戻せる。
- 他の学級の児童の様子が分かり、学年での指導がしやすくなる。

1学年複数学級ある場合、特別の教科　道徳で同一の教材を使い、同じ先生が全学級で授業を行うローテーション授業を行うこともできます。

日頃から、児童の様子や情報を共有することによって、他学級の授業を行う際に、児童の特性や配慮事項等に応じた指導ができます。児童とのつながりを持つ先生が増えることは、児童理解や指導においてプラスに働くことが考えられます。

【参考】「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～」

この事例集は、義務教育９年間を見通しつつ、教科担任制の更なる導入を円滑に進めるとともに、学校現場において効果的に運用するために、教科担任制を小学校教育の活性化に繋げている好事例について、その特徴や運営上の工夫、効果を「見える化」したものです。

文部科学省ホームページの下記ＵＲＬまたはＱＲコードからアクセスし、教科担任制を検討・推進する際の参考としてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_00005.html